

まなびで“きびる”プロジェクト

探究的な学び（総合的な探究の時間）における評価規準作成の参考資料 No. 3（地域のPR）

1 はじめに

やまぐち教育先導研究室では、学習指導要領解説（文部科学省）や「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料（国立教育政策研究所教育課程研究センター）を参考に、まなびで“きびる”プロジェクトで開発した教育プログラム（以下、教育プログラムという）を活用した総合的な探究の時間における評価規準についての資料を作成しました。各学校で総合的な探究の時間を担当する先生方の授業や評価の計画の参考資料として活用してもらいたいと考えています。

2 評価規準とは

総合的な探究の時間で身に付けさせたい資質・能力が着実に身に付くよう指導者は指導を改善し、学習者は学びを改善する必要があります（いわゆる指導と評価の一体化）。改善点については、各学校で作成した目標に対応した評価規準と現状とを比較することで把握するとよいでしょう。

学習指導要領（平成30年告示）では、総合的な探究の時間の目標及び内容は資質・能力の三つの柱（「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力、人間性等」）で整理され、学習評価については、三つの柱に対応した3観点（知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度）の評価規準が必要です。

3 教育プログラムとは

教育プログラムとは、探究的な学びにおける、課題発見・解決のための調査方法やアイデア発想のコツ及び、解決策を伝えるためのプレゼンテーションの技を知ることができる解決・思考ツールです。総合的な探究（学習）の時間のほか、各教科で活用することで、児童・生徒の思考を深めることが期待できます。また、教育プログラムを使って指導することで、総合的な探究（学習）の時間等の探究的な学びについて、初めて指導する方も効果的に指導できるツールとして活用できます。

4 参考資料（想定事例）

- (1) 学校名：C高等学校（総合学科）
- (2) 授業：1学年 総合的な探究の時間
- (3) 単元名：Cの町を効果的にPRしよう（35時間）
- (4) 単元の目標：

自分たちが住んでいる地域のPRをするための活動を通してア、地域課題や地域資源、その背景について理解しイ、地域のよさをより効果的に外部にPRするための具体的な方策を考察するウとともに、地域社会の一員としての自覚をもち、地域活性化に貢献しようとすることができるエようにする。

※目標を構成する要素

- ア 探究課題を踏まえた単元において中心となる学習対象や学習内容
- イ 育成をめざす資質・能力のうち、単元において重視する「知識及び技能」
- ウ 育成をめざす資質・能力のうち、単元において重視する「思考力・判断力・表現力等」
- エ 育成をめざす資質・能力のうち、単元において重視する「学びに向かう力、人間性等」

(5) 単元の評価規準

育成をめざす資質・能力の
三つの柱に対応

単元名	評価の観点		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
Cの町を効果的にPRしよう	① Cの町に住む人々や歴史について知ることが、地域課題の解決につながり、地域のPRに活用できることを理解している。 ② 考案したPR活動の効果に関する実地調査を、相手や研究内容に応じて、適切かつ正確に実施している。 ③ 地域についての理解は、自らの課題意識の中で探究してきたことの成果であることに気付いている。	① Cの町の情勢や歴史に関する調査活動を通して、現在の地域課題の解決に向けた方策について考察し、それをもとにした地域のPR方法について、見通しをもって計画している。 ② 地域の情勢や歴史に関する情報を目的に応じて、効果的な手段を選択しながら収集している。 ③ 収集した情報を整理し、地域課題との関連性を推測することで、より効果的な地域のPR方法について分析している。 ④ 効果的な地域のPR方法について根拠をもって表現している。	① 地域のPR活動に向けた取組の意義を理解するとともに、自らの意思で探究に取り組もうとしている。 ② 自らの意思で地域課題について考え、町をPRしていくための活動に向け、地域の人々と協働しながら取り組もうとしている。 ③ Cの町の更なる発展に向け、自らが地域の一員である自覚をもち、地域活性化に貢献しようとしている。

- ①概念的な知識の獲得
- ②自在に活用することが可能な技能の獲得
- ③探究の意義や価値の理解

- ①課題の設定
- ②情報の収集
- ③整理・分析
- ④まとめ・表現

- ①自己理解・他者理解
- ②主体性・協働性
- ③将来展望・社会参画

(6) 指導と評価の計画 (全 35 時間)

㊦ その場面での活用により活動の質の向上が期待できる教育プログラム

小単元名 (時数)	ねらい・学習活動	知	思	態	評価方法
1 Cの町の現状や歴史について理解し、地域課題について考えよう (14)	㊦PROTOTYPE FOR ONE ㊦クリエイティブ・リサーチ ・ Cの町の現状について地域住民にインタビューをする。 具体的事例①「知識・技能①」	①			・ インタビュー計画書
	・ 資料を用いてCの歴史について調査する。	②	②		・ インタビュー振り返りシート
	㊦アイデア 100本ノック ・ インタビューの結果から地域課題について分析する。 ・ 地域課題の解決に向けてCの町のどのような資源を活用すればよいか考える。 具体的事例②「主体的に学習に取り組む態度②」			② ①	・ 分析資料 ・ 活動日誌 ・ 地域資源活用シート
2 Cの町のPR方法について考えよう (11)	・ Cの町の現状や課題を踏まえ、Cの町を効果的にPRする方法について考える。 ・ より効果的にPRするためにはどのような手段があるか考える。 ・ 地域住民と協働したPR方法について考える。 具体的事例③「思考・判断・表現③」		③		・ PR企画書
3 自分たちの活動を振り返り、地域活性化について考えよう (10)	㊦中身のいないプレゼンの授業 ・ Cの町のPR方法についてまとめ、発表会を企画・実施する。	②	④		・ 発表会企画書 ・ 発表会実施資料
	・ 自身の考案した方法について検証を行い、まとめる。	③		③	・ 活動日誌 ・ レポート

各観点を見取る場面を設定する。一度に多くの観点を見取ることは難しいので、確実に見取ることができるよう計画すること。

(7) 観点別学習状況の評価の進め方

○ **具体的事例①「知識・技能①」**

- ・ 評価の場面

本単元の導入部分において、Cの町の課題について検討し、その課題点について更に理解するために、地域住民にどのようなインタビューをすれば良いかを考え、インタビュー計画書にまとめた。ここではインタビュー計画書を「知識・技能①」の評価資料とした。

なお、インタビュー後はその内容に応じ、図書館で地域の歴史や現状について調べ、地域の課題の背景について考察する。

- ・ 学習活動における期待する生徒の姿と評価方法

【評価規準「知識・技能①」】

Cの町に住む人々や歴史について知ることが、地域課題の解決につながり、地域のPRに活用できることを理解している。

【期待する生徒の姿】

地域課題の把握に向けた地域住民に対するインタビューの内容を、歴史や生活などの幅広い視点から考案することができている。

指導者は生徒の期待する姿をめざし、生徒と積極的に関わりながら、適宜アドバイスをするなど指導していきましょう。

【見取る方法】

インタビュー計画書に記述されたインタビュー項目が、課題を明らかにするという意図をもって設定されているかを見取ります。

【コラム】教育プログラムの活用場面

この小単元は、学校の立地する町の課題と、その課題の解決に向けた、地域資源の活用について考える小単元である。そのため、課題解決の流れを体験することができる教育プログラム「PROTOTYPE FOR ONE」を体験することにより、これからの学習の流れを見通すことができる。

また、地域での情報収集の場面が設定されていることから、情報収集の手段を整理することのできる教育プログラム「クリエイティブ・リサーチ」の活用が考えられる。特にインタビューの準備段階において、その意義や価値を意識することにより、効果的なインタビュー活動を促すことができる。

○ **具体的事例②「主体的に学習に取り組む態度②」**

- ・ 評価の場面

前時までに地域住民へのインタビューや現状調査を行い、Cの町の課題点を明らかにし、分析して資料をまとめた。その結果、生徒はCの町には主に「生活」「交通」「観光」の3分野に大きな課題が存在することに気づき、それぞれの課題の歴史的・地理的背景について更に考察を深めた。

小単元のまとめとして、その背景に基づき、地域資源を活用し、課題解決に向けて、地域・行政・学校が協働して取り組んでいくことの必要性を認識した。ここでは主に、地域課題の背景と課題解決に向けた方法が記載された地域資源活用シートを評価資料として用いた。

- ・ 学習活動における期待する生徒の姿と評価方法

【評価規準「主体的に学習に取り組む態度②」】

自らの意思で地域課題について考え、町をPRしていくための活動に向け、地域の人々と協働しながら取り組もうとしている。

【期待する生徒の姿】

地域の課題解決のために、地域資源の活用に向けて地域の方々と協力しながら取り組んでいく手法について検討するとともに、実際に行動に移すための準備をしている。

指導者は生徒の期待する姿をめざし、生徒と積極的に関わりながら、適宜アドバイスをするなど指導していきましょう。

【見取る方法】

地域資源活用シートに記載されていた、地域課題とその解決に向けた具体的な手法との関係の記録の変化や、地域との協働についての計画が具体的で実行可能かどうかを見取ります。

○ **具体的事例③「思考・判断・表現③」**

- ・ 評価の場面

生徒は前時までの活動を通じて、Cの町の課題や現状について、インタビュー内容や各種資料に基づいて分析し、その解決方法について考察している。それらの内容から、Cの町を外部に向けてより効果的にPRしていく手法について検討する。

ここでは、地域住民と協働し、地域の資源や人材を活用したPRの方法について考察する場面を捉え、PR企画書を評価資料として用いた。

- ・ 学習活動における期待する生徒の姿と評価方法

【評価規準「思考・判断・表現③」】

収集した情報を整理し、地域課題との関連性を推測することで、より効果的な地域のPR方法について分析している。

【期待する生徒の姿】

地域の課題解決に向けた地域資源の活用について、PRすべき対象を意識した手段を選択することが出来ている。

指導者は生徒の期待する姿をめざし、生徒と積極的に関わりながら、適宜アドバイスをするなど指導していきましょう。

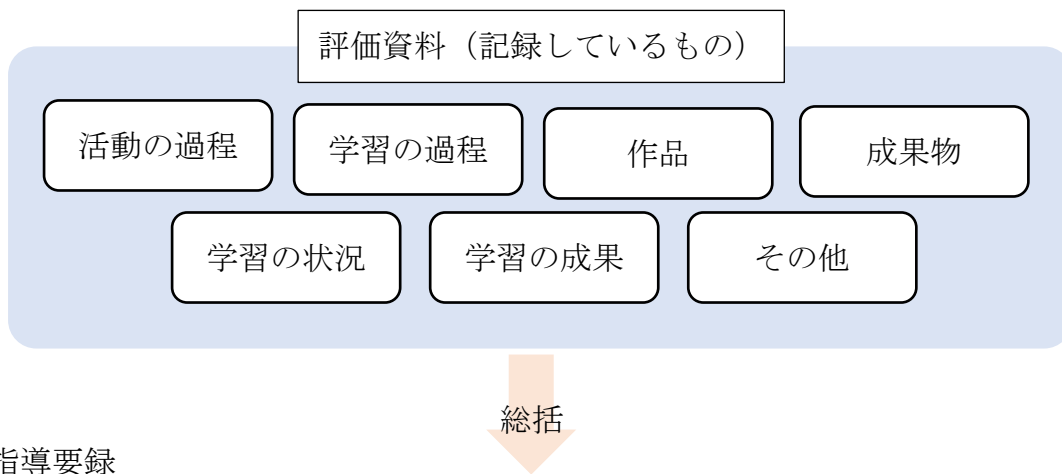
【見取る方法】

PR企画書のPR内容や対象を意識した手法が、根拠に基づき記載されているかどうかで見取ります。

5 単元計画までの準備

- ① 学校教育目標を確認する。
- ② 総合的な探究の時間の目標（以下、第1の目標）を確認する。
- ③ 学校教育目標と第1の目標を踏まえ、各学校において定める目標（以下、第2の目標）を作成する。
- ④ 小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における児童・生徒の学習評価及び指導要録の改善等について（通知）（以下、改善等通知）を確認する。
- ⑤ 第2の目標と改善等通知を踏まえ、学校において定めた総合的な探究の時間の評価の観点の趣旨を作成する。
- ⑥ 各学校で内容のまとめり（目標を実現するにふさわしい探究課題、探究課題の解決を通して育成をめざす具体的な資質・能力（三つの柱））を作成する。
- ⑦ 内容のまとめりごとの評価規準（3観点）を作成する。
- ⑧ 内容のまとめりごとの評価規準の考え方を踏まえ、単元の目標（三つの柱による）を作成する。
- ⑨ 単元の評価規準（3観点）を作成する。
- ⑩ 指導と評価の計画を作成する。

6 評価の総括のイメージ



学習活動	観点	評価
単元名等	知識・技能 思考・判断・表現 主体的に学習に取り組む態度	生徒にどのような力が身に付いたかを文章で端的に記述

参考資料

- ・文部科学省、『高等学校学習指導要領（平成30年度告示）解説 総合的な探究の時間編』，学校図書株式会社
- ・国立教育政策研究所教育課程研究センター、『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料【高等学校総合的な探究の時間】』，株式会社東洋館出版社